

No.18 亀は万年

言問橋のたもとで亀売屋が商売している。甲羅に穴を開けて糸で結わえた亀を十数匹、粗末な木枠にぶら下げて売っている。人々はこれを買うとすぐに墨田川へ逃がしてやる。亀は、万年生きるのでこうして助けてやると、ご利益をくれることになっていたからである。

ある日のこと、井戸屋の久三がここを通りかかって、

「おい、ご利益の沢山ありそうなのをくんねえ」と言って一番安いのを一匹買った。すぐに、大川に逃がしてやればいいのだが、もったいない気がしたので、家にもって帰って子供たちに見せることにした。

盥にうすく水を張って、その中に一晩入れて飼っておいた。翌朝見ると、亀は死んでいた。怒った久三は、言問橋のたもとに行き、

久三：「おい、昨日お前んところから買って行った亀なあ、今朝死んじゃったぜ。」

亀売り：「そうですかい。あいつは昨日でちょうど万年目だったんでさあ。」

